

「第 8 回中津川市域学連携成果発表会」を開催しました！

令和 6 年 2 月 10 日（土）、令和 5 年度に中京学院大学をはじめとする市内外の 8 大学 3 高校が、地域課題の解決のために取り組んだ内容とその成果を発表する「中津川市域学連携成果発表会」を、中京学院大学と共催で開催しました。ひと・まちテラスの会場には約 90 人の方にお集まりいただき、YouTube のライブ配信視聴も合わせると 120 人以上の方に学生の熱い発表を聞いていただきました。学生の活動についてご意見をいただくとともに、市が推進する域学連携活動を多くの方に知っていただく機会となりました。

また、成果発表会終了後は発表を行なった学生の交流会も開催し、互いの活動についての情報交換や意見交換をしながら交流しました。中津川市についてのクイズも出題され、難しい問題の回答が発表された時には笑いが起きるなど、アットホームな雰囲気でした。参加した学生は、同じ中津川で活動する学生同士の交流を楽しんでいる様子でした。

■各参加大学・高校の発表の様子

中津商業高等学校「DXでまちづくり～NAKATSUGAONE～」



3年生のビジネス科経済コースの生徒が「NAKATSUGAONE」というまちづくりチームを発足しました。地元企業の紹介動画を作成し、企業PRを行うことで集めた資金を活用し、「子どもたちに地域の魅力を知ってもらうためのイベント」を開催しました。

名古屋工業大学「加子母の魅力の発信と創出」



加子母小学校「学びの森」の活用方法として、児童の樹木や森林への好奇心を育むための「間伐」をテーマとしたワークショップを計画・実施しました。この取組みは、小学校の教員や加子母地区で活動する他大学の学生等とも連携して行われ、来年度以降の活動の広がりも期待されました。

名古屋外国語大学「アフターコロナを見据えた取り組み 2023～防災と観光の進捗と今後～」



観光面では、中心市街地のまち歩きマップを作成し、中津川駅から人の流れが生まれる仕組みづくりについて検討しました。防災面では、外国人観光客が多く訪れる馬籠地区において、英語表記の防災マップや防災情報カードに改良を加えました。また、地域の会議に参加し、そこで出た課題に対してヒアリング調査を行いました。

富山大学「阿寺断層沿いでの災いと恵みについて学び・深めて・伝える事業」



阿寺断層の地層や周辺の生態系等についての調査・分析を行いました。また、地元の小学生や防災士との企画に参加することで学びを深め、地域の方へ伝える活動も行いました。

中津高等学校「中津川市を探究しよう」



「まちづくりについて考え、高校生としてできることをやってみる」をテーマに、市都市住宅課と連携し、公共空間の活用について考えました。四ツ目川の河川敷を活動したイベントや駅前広場のイルミネーションを行い、まちを訪れる人の楽しみや憩いの空間づくりに貢献しました。

東京工業大学「ビジョン周知ワークショップを通じた市民ニーズ報告」



昨年度、市商業振興課との連携により策定された「中心市街地まちづくりビジョン」について、市民に周知するためのワークショップや事業者へのヒアリングを行いました。また、ワークショップの中で市民から集まった中心市街地に対するニーズの傾向を分析しました。

大正大学（オンライン発表）

「中津川市における遊びを活用したふるさと教育の推進及び中津川市の観光まちづくりの可能性」



「観光まちづくりの可能性への考察」及び「遊びによるふるさと教育推進の可能性の検討」をテーマに、市内の事業所や関係団体へのヒアリングや現地調査を行い、結果を考察しました。

東京大学「超広域リアネットワークと付知地区の交通政策」



「持続可能な山林都市」をテーマに、付知地区における公共交通の現状をミクロ、マクロ、メゾの3つの階層に分けて分析しました。分析結果をもとに地域公共交通に関わる施策についての提案を行いました。

坂下高等学校「令和 5 年度探究活動の成果」



「総合的な探求の時間」において、「新しいカタチの防災訓練」をテーマにした防災の取り組みと、「誰もが新鮮でおいしい野菜・果物が手に入る環境作り」をテーマにした地産地消についての取り組みについて発表しました。来年度も引き続き取り組みを行っていきます。

中京学院大学「令和 5 年度教養ゼミ活動報告」



市内の 6 事業所・団体からそれぞれの課題をもらい、学生が課題解決方法を考え提案しました。当日は「中津西まちづくり協議会」の課題に対して中津西地区内の神社巡りウォーキングマップを作成したグループと、「フカミファーム」の課題に対して焼きドーナツの商品開発を行ったグループが活動の成果を発表しました。

加子母木匠塾（京都芸術大学）「2023 年度 加子母木匠塾の取り組み」



関東・関西の大学を中心に集まった計 200～300 名もの建築学生が、加子母地域全体をフィールドに伝統的な技法や山村文化の継承、自然環境の保護の推進等に取り組む活動で、29 周年を迎えました。今年度は「新しい出会い」をテーマとして、地域の方からの要望も踏まえた制作物を 3 種類制作しました。

■小栗仁志市長によるあいさつ



■築瀬洋一郎学部長による講評



■学生交流会の様子



中津川クイズに挑戦！

普段は交流することがない大学生・高校生が、中津川市での活動のエピソードや互いの学校生活について紹介するなど、盛り上がっていました。

